

第10回大分県高大連携シンポジウムを開催しました

2月19日(水)14:00~17:15 本学経済学部 201号教室において、「『探究の時間』を探究する」というテーマの下、第10回となる大分県高大連携シンポジウムを大分県教育委員会のご後援を得て実施しました。県内外より高等学校及び大学関係者など40名ほどが参加されました。

開会行事では主催者である北野正剛学長の代理として本学教育担当理事の大崎美泉副学長と来賓として大分県教育庁の檜崎信浩教育次長にご挨拶をいただきました。



大崎理事

檜崎教育次長

基調講演は島根大学教職大学院の中村怜詞准教授から「これからの探究とは」と題してお話をいただきました。中村先生は隠岐島前高校においてキャリア教育主任として地域連携型・体験型のキャリア教育や地域課題解決型の探究学習を企画・設計・運営された経験をお持ちで、大学院に移られてからは教育魅力化等を研究されながらコーディネーター育成プログラムを運営されています。このような経験を踏まえられて、これからの高校生にとって必要となる「自分と周囲にとってより良い状況を作り出そうとする力」を育てるための探究活動について、参加者とコミュニケーションしながら、お話を進めていただきました。そのための方策として最も効果的なのは、生徒が「経験的に学ぶ場を提供すること」であるとおっしゃいました。そして、その際に重要なポイントは「本気の大人と早めに出会う」ことだと話されました。最後に高校の先生方に向けて「まずは自分が探究的学習者になる」ことを要請されて講演を終えられました。



中村先生



梅北先生

甲斐先生

永松先生

続いて事例発表を行いました。宮崎県立飯野高等学校の梅北瑞樹先生は実践型課題解決活動に取り組んだ結果、生徒が変わり、学校が変わり、地域が変わったという成果を報告してくださいました。大分県立別府鶴見丘高等学校の甲斐裕昭先生からは教育課程研究指定校として2年間取り組んでこられた

成果と課題についてお話くださいました。教科の学習等においても様々な思考ツールを用いることによって生徒は学力向上につながる授業になっているとの実感を持てるようになってきているとのことでした。大分県立大分鶴崎高等学校の永松寛明先生からは、これまでの調べ学習から探究的な学習への転換を図ったこの1年間の取り組みを報告していただきました。組織化や教科との関連性をどう図るかなどの課題が明らかになったとのことでした。



小笠原教授



最後は中村先生に再びご登場いただき、カリキュラムマネジメントに関するグループワークに取り組みました。閉会挨拶は本学学長特命補佐の小笠原悟教授でした。